



トピックス

- ・「ひろがる・つながる仲間の輪」新入会員の紹介
- ・私の職場紹介
- ・委員会紹介「広報委員会」
- ・ソーシャルワーカー応援企画「意志あるうちの意思決定～権利擁護の狭間～」
- ・私の「好き」を紹介します
- ・ペンリレー

ひろがる・つながる 407名の仲間の輪



本会の会員数は、令和8年4月1日時点で**407名**となりました。この2年間で**57名**の新たな仲間を迎え、秋田県社会福祉士会のつながりはさらに広がっています。

今回は令和6年～7年度に新しく入会した会員から入会のきっかけと抱負を伺いました！

荒川 真 妃さん

私は令和6年に秋田県社会福祉士会に入会させていただきました。現在は、大館市福祉事務所で相談支援員として勤務しています。

社会福祉士会に入会したのは、自分自身が成長できるきっかけになると考えたからです。市役所に入庁し、自分は国家試験に合格し専門職としてのスタートラインに立っただけで、自己研鑽を続けていかなければ成長することができないと思うようになりました。そのような思いを抱え入会を迷っていた時に、同職場の先輩が背中を押してくださり、入会することを決めました。社会福祉士として勤務し始め今年で3年目となります。まだまだ知識不足や経験不足を痛感しているため、今後のステップアップのために研修等に積極的に参加し、自己研鑽に励み、同職場の先輩方のように、誰からも信頼される存在を目指していきたいです。



小松 咲 太さん

私は、社会福祉法人わかば会の由利本荘市中央地域包括支援センターに勤務する社会福祉士として、地域の高齢者やその家族からの相談を受け、医療・福祉などの関係機関と連携しながら、高齢者の方々が住み慣れた地域での生活を続けられるよう支援しています。また、権利擁護の活動や、地域のネットワークづくりにも取り組んでいます。社会福祉士会に入会したきっかけは、研修や他の分野で活躍している社会福祉士の方々との交流を通して得た学びを業務に活用し、社会福祉士としての専門性を磨き上げたいと考えたからです。

今後は地域との繋がりを大切にしながら、相談に来て下さった方の思いを丁寧に聞き取り、「相談して良かった」と思ってもらえるような社会福祉士になりたいと考えています。



菊 子 綾 子 さん

居宅介護支援事業所で介護支援専門員として勤務しています。社会福祉士を取得したきっかけは、里親制度に関心を持ったことでした。主に高齢者に関わる仕事をしてきたこともあり、制度について知識はあっても児童福祉は専門外であり、改めて体系的に学び直したいと考え受験しました。プライベートな理由からの資格挑戦でしたが、社会福祉士会では様々な分野で活躍されている方々との研修や交流の機会があるため、分野を越えた出会いが日々の業務にも良い影響となり、おかげさまで支援の幅が広がっていると感じています。まだまだ力不足のためいつかだれかの一助となれるよう今後も学びを重ねていきたいと思っています。



伊 藤 みさとさん

私は、社会福祉法人 大館市社会福祉事業団 特別養護老人ホームつくし苑で介護員として勤務しています。秋田県社会福祉士会への入会は、施設長からの紹介がきっかけでした。新入会員オリエンテーションに参加し、会員の方々の社会福祉士を志したきっかけや、今後の抱負などを聞き、大きな刺激を受けました。入会後はまだ研修に参加できておらず不安もありますが、将来、相談業務に携わることを見据え、研修に参加し、学びを深めていきたいと考えています。

今後は多職種や地域の方々と連携し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献できる社会福祉士を目指し、自己研鑽に努めたいと思います。ご指導よろしくお願ひいたします。



私 の 職 場 紹 介

会員の方 2 名にご自身の職場について紹介いただきました。

更生保護施設 秋田至仁会

福祉職員 石 坂 公 栄

私は、令和 3 年 4 月から秋田市檜山川口境にある更生保護施設「秋田至仁会」で福祉職員として勤務しています。秋田至仁会は、明治 33 年 9 月に秋田出獄人保護所として創設された歴史のある民間の施設で、現在の入所定員は男子 20 人（成人 16 人、少年 4 人）です。

更生保護施設は、刑事施設から釈放された人や保護観察を受けている人などのうち、頼ることのできる人がいない人たちを一定期間受け入れて、宿泊場所や必要な支援を提供し、円滑な社会復帰を助け、再犯を防止しています。

福祉職員としての業務は、福祉サービス利用の調整や生活保護申請の支援、施設でトラブルなく生活できるよう生活指導等を行っています。また、最近では特定補導として認知行動療法に基づいた個別処遇プログラムやグループミーティングを取り入れています。

今まで担当した 50 歳代の窃盗を繰り返した男性のケースを紹介します。男性は、障がい（知的、発達）が疑われたため、精神科への受診、基幹相談支援セン

ターとの連携、相談支援事業所の支援で就労先の調整、不動産屋の協力を得てアパートへの入居を支援しました。退所後は、保佐人が付き金銭管理や行政手続きの支援、フォローアップの訪問を継続し、現在も再犯することなく生活しています。

更生保護施設には、様々な問題を抱えた人が入所するため、個々の問題への支援と突発的な問題にも対応できる機転が必要な仕事です。良い意味で、刺激的でモチベーション高く働ける職場です。

彼らが更生して地域で生活できている姿を見ると、この仕事の喜びを大いに感じます。しかし、数年後に新たな問題を抱えて戻ってくる人も少なくありません。そのような人にも、社会で受け入れられるよう根気よく丁寧に支援していきたいと思っています。



医療法人惇慧会 外旭川病院 MSW 鈴木 譲

私は介護福祉士として外旭川病院に入職し、2020年からMSWとして勤務しています。当院は秋田市北部に位置し、療養病棟207床、ホスピス34床です。療養病棟は酸素投与や頻回な痰吸引等、24時間の医療管理を行う病棟です。地域柄、秋田市や南秋地域のご紹介が中心ですが、当院は人工呼吸器が必要な患者さんが多いのが特徴で、全県から広くお問い合わせをいただいております。ホスピスは、苦痛緩和を必要とする癌患者さんに緩和ケアを行う病棟です。当院ホスピスは1998年に秋田県で初めてのホスピスとして開設しました。ホスピス・緩和ケア病棟は秋田市と大仙市の3か所のみであり、こちらも全県からお問い合わせいただいております。

普段の業務は入院支援が中心ですが、入院中の方のご相談への対応、外出支援、状態が安定した方や自宅退院を希望する方の退院支援も行います。私個人は退院支援の経験値が少なく、職場の先輩方の助言や、院内・院外の多職種の皆さんに支えていただいております。いつも大変感謝しております。

皆さんに当院を知っていただく取り組みとして、毎

年ホスピス市民公開講座や地域講演会を行っています。市民公開講座は、今年は10月3日に秋田市ALVEで開催します。入院の流れ、症状緩和、病棟の様子などをイメージしやすいよう、スタッフ出演の寸劇とホスピス医の講演等を予定しています。地域講演会は当院を会場に、地域の方への健康情報の提供を目的としています。昨年はケアマネジャーやMSWの方もご参加いただきました。また、FAXにて各事業所さまに当院の情報を定期的に送信させていただいております。「こういう方は対象になるかな」「ここをもう少し教えてほしい」等のご質問も、お気軽にお問い合わせください。

春から新たなスタッフが加わり、患者さんや地域の皆さんのお役に立てるよう、ますます充実させていきたいと思っております。今後ともよろしく願います。



委員会活動紹介

秋田県社会福祉士会には、複数の委員会があります。
今回は、「広報委員会」の活動について紹介します。

広報委員 伊藤 誠 吾

広報委員会では、秋田県社会福祉士会のホームページや会報誌により情報発信しています。ホームページでは、「つぶやき日記」(Facebook)というコーナーを設け、広報委員が日々の出来事についてのつぶやきや会の活動報告をしています。会報誌は、「かぜ」を毎年2回発行しています。会報誌発行の編集作業では、会員のみなさんが興味をもってくれそ

うな話題や日々の実践に役立ちそうな話題を検討し、記事にしています。昨年度は、会員の方から記事を応募し、応募してくださった会員の方の活動を広く知ってもらう「ソーシャルワーカー応援企画」もはじめました。会報誌を通して会員同士がそれぞれの活動を知り、つながれたらなと思っております。是非、ご一読ください。



ソーシャルワーカー応援企画

第 2 回目は、潟上市社会福祉協議会の鎌田天嗣さんからの応募で、「意志あるうちの意思決定」と題して所属組織の権利擁護政策の取り組みについて寄稿いただきました。

意思あるうちの意思決定 ～ 権利擁護政策の狭間 ～

潟上市社会福祉協議会 鎌田天嗣

○事業概要

潟上市社会福祉協議会は中期的展望として、『権利擁護事業では対象とされていない「判断能力がある方」も対象とする権利擁護センターの運営を目指しています。

○取組の背景

「身寄りのない高齢者」は県内でも課題となっていますが、「身寄りがなく、資力が乏しく、判断能力がある方」には、具体的な支援策がありません。一方、身寄りがなくとも、判断能力と資力があることで、民間の身元保証サービスや、任意後見などの利用が可能となります。また、資力のある・なしに関わらず、判断能力がない状態になった場合には、法定後見を利用することができます。

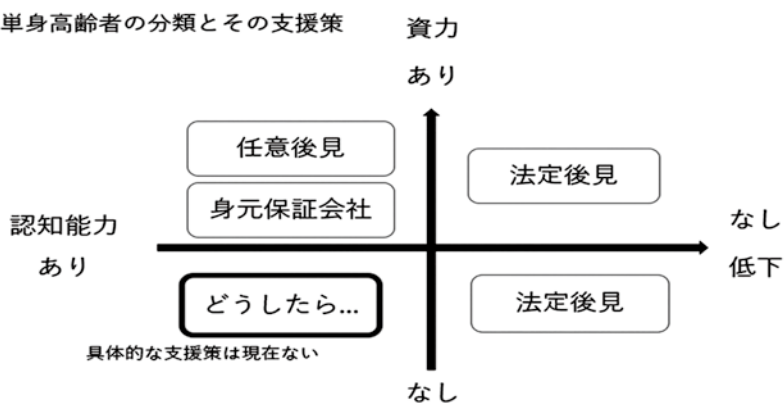
権利擁護事業は判断能力が不十分な方が対象であるが、判断能力がある方の権利擁護の必要性が、過去のケース分析により明確になりました。高齢期の緊急入院等に際

し、身寄りがなく、資産もないことにより、医療・福祉への結び付けの課題があります。また、自身の死後に残る遺産（負債）や家屋等の課題もあります。

○事業内容

権利擁護センターは、認知症、知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な者が、地域において安心した生活を送れることを目的に、当面は成年後見制度法人後見事業と日常生活自立支援事業を実施します。中期的な展望として、身寄りがなく、資力が乏しく、判断能力のある方が自分の人生をマネジメントできるようエンパワメントし、必要なサービスを選択できるような公益的事業化に向け、調査研究を実施しています。研究内容は、持続可能な権利擁護支援モデル事業（令和6年度モデル事業実施自治体等連絡会）の資料でも課題とされる、「預託金」・「民業圧迫の可能性」・「マンパワー」等の課題があります。潟上市社会福祉協議会は、「日常生活自立支援事業の契約前後に発生する課題への対応」と「身寄りのない方が死後事務に備える資産形成支援」を軸に、民業圧迫を避けるためのネットワークづくり、及び、専門職団体との連携を進めます。

単身高齢者の分類とその支援策



出展：日本総研ホワイトペーパー「個・孤の時代の高齢期」から。
済生会神奈川県病院医療福祉相談室の鎌村誠二室長によるおひとり様分類

ソーシャルワーカー応援企画 応募要項

社会福祉士会広報委員会では、意欲あるソーシャルワーカーの活動を応援する目的で会員の方からの寄稿を募集いたします。まだ、広く知られていない活動を紹介したい、社会課題解決のためにソーシャルワーカーが企画し、取り組んでいる活動の紹介をしたいなど、寄稿を希望される方は、秋田県社会福祉士会事務局（メールakitaken-csw@flute.ocn.ne.jp）まで氏名、所属 職名 会員番号 電話番号、投稿内容の概略を記入し、お送りください。広報委員会で4、10月号への掲載の可否を検討し、投稿依頼をさせていただきます。

わたしの『好き』を紹介します

今回は、会員みなさんの「好き」についてお聞きしました

☆佐々木 弥生子さん

私の「好き」はアロマ時間です。子供が小さい頃「○○イタイ」等ちょっとした不調に、お手当できる引き出しを自分の中に持ちたくて、アロマの勉強を始めました。現在はアロマ検定の1級を持っています。そして、日頃のケアや香りを楽しみたい時にアロマを使っています。2023年7月、100年に一度といわれた集中豪雨で自宅は床上浸水となりました。家のリフォームまで自宅2階での生活、引っ越して仮暮らしの8か月の避難生活を経て、自宅での生活を再建しました。その間、環境の変化や先の見えない暮らしへの不安に心身が疲弊することもありましたが、周囲のあたたかい支援に助けられ乗り越えることができ、感謝しています。そんな時いつもの香りは私にそっと寄り添い癒してくれました。好きな香りはゼラニウムやラベンダーです。すーっとなじむ香りのように自然体でありたいものです。最近では旅先の香りを見つけることが楽しみです。年末に弾丸旅行した函館のアロマは帰宅後も思い出と共に香りを楽しませてくれます。慌ただしい日々でもささやかな暮らしを大切にしていきたいです。



☆丹尾 司さん

私の「好き」は、子どもたちのよさこいの“追っかけ”です。今から2年前、小学4年生の長女と小学2年生の長男がよさこいを始めたことがきっかけでした。最初は「続くかな」という気持ちで見守っていましたが、今では練習日や審査会、お祭りなど、予定を確認しながらできる限り会場へ足を運ぶほど、私自身も夢中になっています。

日々の練習では、暑い日も寒い日も仲間と一緒に声を出し、何度も同じ振りを繰り返しています。うまくできず悔し涙を流すこともありますが、その分、できるようになった時の笑顔はとても輝いています。普段はゲームや遊びに夢中で、家では甘えん坊な子どもた

ちが、舞台に立つと表情が変わり、一生懸命踊る姿に毎回胸を打たれます。

「見てくれる人を笑顔にしたい」「カッコいい演舞を届けたい」という思いを胸に、仲間と心一つにして踊る姿は、観ている人たちだけでなく、家族にも大きな感動と元気を与えてくれます。よさこいを通して成長していく子どもたちの姿を、これからも一番近くで見守り、応援し続けたいと思っています。



☆福士 実夏さん

私の『好き』は海外の景色です。大人になってから英語を学び始め、少しずつでも自分の言葉で思いを伝えられるようになったことで、海外旅行に行くようになりました。職場の理解もありお休みをいただき、昨年はイタリアに行ってきました。歴史ある街並みや人々の暮らしに触れる中で、多様な生き方や家族の形を身近に感じました。言葉が十分に通じなくても、英語や身振り、笑顔を通して心が通い合う瞬間があり、人と人とのつながりの大切さを実感しました。今から今年はどこへ行こうかと考える時間も、視野を広げてくれる大切な楽しみの一つです。これからも私の『好き』を追求して、まだ行ったことのない場所に行くことに今からワクワクしています。



